ニュース専修 ウェブ版
2006年5月号
［4面］

『知のツールボックス』（専修大学出版企画委員会編）を広く市販開始

高校までの勉強の仕方と大学でのギャップを埋めるための教材として、3年前に刊行された『学びの道具箱』をブラッシュアップした『知のツールボックス』が、専修大学出版局から装いも新たに出版された（学部新入生には入学式で配布）。

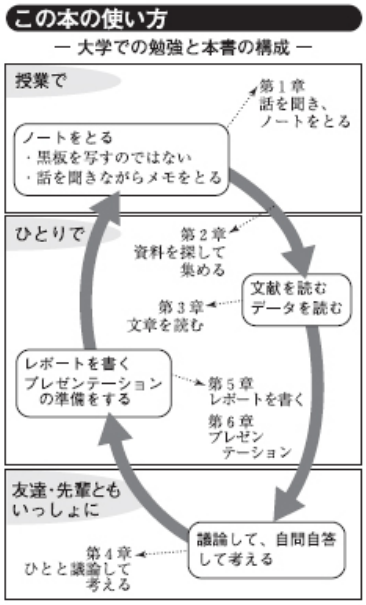
ノートのとり方、資料の収集法、議論の仕方、レポートの書き方、プレゼンの仕方などが、イラスト入りでわかりやすく解説されており、巻末には、文献紹介もある。

「はじめに」を読むとこう書かれている。「問題が与えられ、その正解に至る解法を身につけることが中心だった高校までの勉強に対し、大学では問題があることに気づき、自ら『問』をたて、そこから答えを求めて、調べ、考え、議論し、自分の考えを整理して表現できる能力・センスを身につけることが求められている。この本で、そうしたギャップによる戸惑いを解消し、大学を攻略してほしい」。

編集した出版企画委員会の大庭健委員長は、「そんな願いを込めて副題に『フレッシュマン おたすけ集』とつけましたが、執筆者や原稿モニターの先生方の話し合いでは、教室での経験や戸惑いが山ほど話し合われました。今回は、全国の書店や大学生協にも配本されるので、本学以外の皆さんにも活用していただけるとうれしいですね」と話している。

◎問い合わせ先＝専大出版局 電話03（3263）4230（本体600円＋税）

（新書刊／ビニール装／236頁）



Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

社会知性の開発をめざす 専修大学

ニュース専修 ウェブ版

2006年5月号

[4面]

≪専修人の新しい本≫

虎の門事件（三）
専修大学今村法律研究室 著

元総長で、著名弁護士であった今村力三郎が係わった訴訟記録の一つである「虎の門事件」が完結した。

大正12年（1923）、当時25歳であった難波大助が、摂政であった皇太子裕仁親王（後の昭和天皇）の狙撃を試みた。その場所にちなんで後世「虎の門事件」と呼ばれる。今村は、幸徳秋水（大逆）事件に続いて国選弁護人として弁護を引き受け、主要な役割を演じた。現行刑法にはもはや大逆罪はないが、この大罪に係わる事件であるだけに、世間の注目の下に裁判は進行する。本書に収められた資料は、唯一のものであるだけに現代史をひもとく上で貴重なものである。巻末に収められた石村修室員の解説も参照されたい。（専大出版局・本体4800円＋税）

四本和文対照 捷解新語
林 義雄 編

『捷解新語』は朝鮮李王朝時代の17世紀から18世紀にかけて、日本との交易・外交の際に通訳の任にあたる「訳官」を養成する際の日本語教科書として編集されたもので、平仮名書きの日本語会話文を中心に、ハングルによる発音注記と朝鮮語訳文が逐語的に添えられている。その日本語文には、中世後期から近世前期における話し言葉の特徴が顕著に表れており、近代日本語形成の過渡期の様相をうかがうことができる。

本書はそのテキスト四種の日本語本文の異同が一目瞭然となるように対照的に配置して活字化したものである。（専大出版局・本体5500円＋税）

編者（はやし・よしお）＝文学部教授。担当は日本語歴史資料研究。

首都圏人口の将来像
江崎雄治 著

本書は、日本全体のみならず、首都圏の人口も今後数十年停滞すること、とくに郊外では人口が減少する地区も少なくないことを、多くのデータ分析をもとに論じている。まず、首都圏では出生率が極めて低く、母親世代の縮小とあいまって出生数増加は期待できな

い。さらに第1次ベビーブーム世代などの層の厚い世代が高齢期に差し掛かることに伴う死亡数の増加が不可避である。さらに地方圏などからの転入数の減少、転入した若者のUターン率の上昇により、高度経済成長期にみられたような社会増加も期待できない。本書では、このような論拠を積み重ねながら、首都圏において人口停滞、減少が不可避なことを、豊富な図表をもとにわかりやすく述べている。（専大出版局・本体2800円＋税）

著者（えさき・ゆうじ）＝文学部助教授。担当は社会環境学。

J・S・ハクスリーの思想と実戦
笹原英史 著

J・S・ハクスリーは進化の研究で有名な生物学者である。祖父トーマスも「ダーウィンのブルドッグ」と呼ばれた進化論者であった。そんな生粋の生物学者である彼が初代ユネスコ事務局長として、いったい何をしようとしたのだろうか？

進化論的知見にもとづく彼のユニークな人間観や社会像は「進化論的ヒューマニズム」という思想を形成している。彼はそれを国連専門機関の教育・科学・文化政策をとおして実践しようとしたのである。

本書はこの思想の成立背景や論理的構造、ユネスコでの具現化の経緯を論究の対象にしている。近代における人間の価値の復権を目指し、一人の科学者がヒューマニストとして世界に挑んだ「闘い」の過程がいま明らかになろうとしている。（専大出版局・本体6800円＋税）

著者（ささはら・ひでふみ）石巻専大教授。担当は、教職要論ほか。

現代アメリカにおけるホームレス対策の成立と展開
小池隆生 著

日本より20年以上前からホームレス問題に悩まされてきたアメリカでは、87年にホームレス法を制定し、90年代に入ってから「自立self sufficiency」を促すことで人々のホームレス脱却を目指す「ケアの継続」方針をその対策基本路線として今日にいたっている。

本書では、98年刊行の専修大学大学院紀要「社会科学論集」第22号に掲載された『現代アメリカにおけるアンダークラス問題とその研究視角』ほか多数の論稿を基に「社会問題としてのホームレス問題の出現」「貧困認識と貧困対策」「連邦ホームレス支援法の成立と展開」「ホームレス対策の現場」「現代社会におけるホームレス対策の位置」という5章に分けて論じている。

（専大出版局・本体3800円＋税）※

著者（こいけ・たかお）＝岩手県立大学専任講師。平17院経博。

岡本かの子作品研究―女性を軸として
溝田玲子 著

岡本かの子は大正、昭和期の小説家で歌人、仏教研究家。岡本一平（漫画家）と結婚し、岡本太郎（画家）を生んだ人として知られている。

本書では、かの子が波乱万丈の人生の中で精力的に発表した作品から醸し出される女性像を、主に登場人物の女性を軸に捉え、主な作品を2部に分け、さらに作品別の各章で都市が描かれたものと、ジェンダーを読み取ることのできるものに分けてわかりやすく論じている。かの子の作品は女性たちの生み、育てる〈いのち〉といった人間の生の営みを描いている点を興味深く紹介している。（専大出版局・本体2400円＋税）※

著者（みぞた・れいこ）＝平17院文博

※は平成１７年度課程博士論文刊行助成によるもの

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.